

「8月、バス停」 坂東幸奈

美生（みき）

詩紗（さら）

望（のぞみ）

田舎のバス停

美生、詩紗の2人がいる

美生 　　まったく（時計を見る）

詩紗 　　いつも遅刻するよね、望は。どう、間に合いそう

美生 　　3分間だけ待ってやる

詩紗 　　了解であります、大佐

美生 　　：あれ、スマホ

詩紗 　　ポケットじゃないの

美生 　　ない：

詩紗 　　よく探して

美生 　　あっ：あったあ（鞆のポケットから出す）

詩紗 　　相変わらず、よく物なくすよね、美生は

袖から息を切らした望が現れる

望 　　ふう、時間通りね、おっひさー

詩紗 　　おっひさー、望

美生 　　遅い

望 　　なんで、出発10時でしょ。それに電車が遅れて走ってきたんだから

美生 　　もう、ひやひやした

詩紗 　　ねえ、あのバスじゃない

美生 　　あっ、来た来た

バス停にバスが停まり、扉があく

3人、乗ろうとするが、望、立ち止まる

望 　　ちょっと、このバスの行き先見て

美生 　　「舞然（まいぜん）行き」：あれ、確か「成打（せいちょう）行き」の

はずだけど

詩紗 　　もしかして、見るバスの時間、間違えた

望 　　すいません、行ってください（運転手に言う）

バス、扉が閉まり、バス停から走り去る

望 　　なんで間違えるの、初めてじゃないでしょ

詩紗 　　何回か泊りに来たよね、うちに

美生 　　（時刻表見て）えー、ちゃんと調べたよ。：あっ、これ平日の時間だ。

私達が乗るバス：2時間後だ

詩紗 　　田舎方面だから本数少ないよ

望 　　ああ、もうっ！みきい

美生 　　ごめんっ、ほんとごめん、あっ、ジュース奢るからさ！待ってて

美生、袖にはける。望ベンチに座る。詩紗、ベンチの後ろ側に回り、

壁にもたれる

望 　　：あー、最悪

詩紗 　　最悪だねー

望 　　はあー

詩紗 　　仕方ないよ、美生だもん

望 　　：ごめんね、詩紗、遅れるわ

詩紗 　　いいよ、仕方ない

望 …にしても、暑い

詩紗 暑い？では、特別に（望の首元に手をおく）

望 お、涼しい、なんで？（自分の首に手をやる）

詩紗 手が冷たい奴の特権である

2人の元へ袖から美生が帰ってくる、缶ジュースを2つ持っている

美生 お待たせ、はい

1本は望に渡し、もう一本はその横のベンチに置く

望 おい美生、お前にはもう一生スケジュールは任せないぞ（缶開ける）

詩紗 任せないぞ！

美生 任せておいて、なんで偉そうなの。まあ、時間間違えたのは悪いけどさ

美生、一つ飛ばしでベンチに座る。望、合間でジュースを飲む

望 悪すぎるよー、おばさんに連絡しなくちゃ

美生 あっ、そうだね。（携帯電話をポケットから出す）

もしもし、おばさん、すいません…バスを間違えちゃって

…はい、…ごめんなさい、夕方には必ず伺います

（横から）お母さん、遅れまーす

（横から）ほんと、すいません、おばさん

美生 はい、ありがとうございます。着いたらまた連絡します（電話を切る）

…大丈夫だったさ

望 よかった

美生 とりあえず、時間まで日陰入ろう、自販機のところ屋根あったよ

望 そうだね。…ねえ、そういえばさ、前にもこんなことなかった

望 くそ暑いバス停に、ベンチ…なんか思い出さない？

詩紗 …あっ、旅行の時でしょ、あれもお盆だった

美生 もう、あんたは人の失敗ばかり覚えてるんだから

望 暑い中、バス停で来るはずもないバスを待ったなあ、3人で

詩紗 待った、待った

望 あの時も美生が間違えてたっけ

詩紗 そうそう。結局、別のバスに乗れてよかったけど

美生 2人ともスケジュール、私任せだったじゃない。泊まった民泊の電話も

飛行機の手配も全部やらせてさ

詩紗 民泊、すごいボロ屋だったね。おばあさんすごく良い人だったけど

望 「私やりたい」って言ってたじゃん。それに沖縄に行きたいって言い出

したのも美生だし

美生 あれ、そうだったっけ

詩紗 そうそう

望 そうだよ。海に行きたいって言い出して、私泳げないのにいつの間にか

詩紗 シュノーケリングのコース予約しててさ

望、めっちゃ海水飲んでたね

詩紗 望に海の素晴らしさを知ってほしかったの

望 絶対、嫌がらせじゃん

美生 結局楽しかったし、結果オーライだよ

望 オーライじゃないよ。バスの件は？

美生 見知らぬ土地だったし、田舎だったし

望 言い訳しない

美生 すいません

望 お土産にお金使いすぎて、身動きとれなくて、安いアイス買って食べて

詩紗 撮った写真、3人でずっと見返して時間潰したよね

詩紗 疲れすぎて、次の日の授業サボって、保健室で3人で寝たっけ

望 …なんか、楽しかったのかも

望 …なんだかんだで、楽しかったなあ…

美生 うん、楽しかった…あれからもう2年か

望 早いなあ、もうそんなに経つのか、確かに卒業して1年か

詩紗 早いねー

望 …でも、良かった

美生 何が？

望 いつもの美生に戻ってて

美生 いつもの？

望 うん。あれ以来、暗くなっただっていうか。いつも、空元氣っていうか

美生 …そうかな

望 そうだよ。でも、久々に会って話せて、安心した

美生 …そっか

望 でも…仕方ないよ、あんなことがあったら

美生 うん。…最近になって、よく現れるんだよね、私の前に

望 なにが

美生 恨めしいとか、憎いとかじゃなくて、明るい姿で、笑顔のあの頃のまま

詩紗 …

望 えっ、美生。それって…

美生 うれしくて、ずっと一緒にいたいけど、楽しい思い出に、あの子を縛っちゃだめだよ

望 …美生

美生 あそこに行くとか、消えちゃう気がして…実はすごく迷ったんだよ

望 でも、このままじゃダメ。今はちゃんと向き合える。お別れしなくちゃ

望 …それで、今回誘ったの

美生 うん

望 2人揃って行くのは、久々だね

美生 だね…、なんか、足が遠のいちゃってた

望 …私も、楽しい思い出のまま、終わらせてた

美生 そろそろ解放してあげたい、私も前に進まなきゃ

望 …あれは美生のせいじゃないよ

美生 分かってる。でも…彼女を呼び出したのは多分、私なんだ。私のせいで

望 まだ残ってるとしたら

詩紗 …

望 ……美生

美生 ごめんね…日陰に行こ。そこでバス、待とうか

望 うん

美生、望、はける。詩紗、残る

詩紗 …「前に進む」……か

詩紗、2人の後を追ってはける